

北海道胆振東部地震検証会議 意見整理（修正後）

(1) 情報収集・通信	2
(2) 避難行動	3
(3) 避難所運営・支援	4
(4) 物資及び資機材の備蓄・支援	7
(5) 災害対策本部の体制と活動	9
(6) 救助救出・災害派遣要請	9
(7) 医療活動	10
(8) 広報・情報提供	11
(9) ライフライン	12
(10) 交通	12
(11) 孤立地区	13
(12) ボランティア	13
(13) 積雪寒冷期等	14
(14) その他	15

※ 「課題」については、下線部分を追加、「今後の対応」については、下線部分が修正された部分で、修正前後で対比しています。

(1) 情報収集・通信

① 今回の対応等

- ・ 停電時には、個人のスマートフォン及びアナログ回線により情報を収集した。
- ・ Jアラート、北海道防災システムの非常用電源に切り替えた際にテレビに電気を供給することができたため、テレビにより情報を収集した。
- ・ 芦別消防署職員及び芦別警察署職員の来庁により、その時点で持っている情報の共有を行ったほか、個人の携帯電話により、連絡を取り合うこととした。また、自衛隊からは、市防災担当職員に定期的に連絡があった。
- ・ 北電から何度か電話連絡があったほか、通電後はFAXにより停電状況が来ていた。
- ・ 午後4時頃通電によりネットワークが復旧した。

② 意見及び今後の対応

意見	課題	今後の対応（修正前）	今後の対応（修正後）
デマ情報がたくさん流れるが、情報の発信元が信用できるところとして、芦別市が情報を発信してほしい。	デマ情報に対する正確な情報の発信 高齢者に対する情報の発信	広報誌、市ホームページを通じ、市が行っている39メール、Twitter、LINEを知ってもらうよう日頃から宣伝し、正確な情報の発信をまいります。	広報車による情報発信のほか、芦別消防署を通じ消防車（分団）による情報発信の依頼や、広報誌、市ホームページを通じ、市が行っている39メール、Twitter、LINEを知ってもらうよう日頃から宣伝し、 <u>これらSNSによる正確な情報の発信をまいります。また、SNSや市ホームページを見ることが出来ない高齢者の方への情報発信として、町内会との連携を図り、町内の連絡網による連絡体制も検討していく。</u>
情報を受け取った人が、何により受け取ったのか検証すべき	情報を受け取った方の検証	どのような方法で検証できるのか検討してまいります。	
停電で市役所に電話が通じなかった。	非常用電源の確保	停電になっても電話が利用できるよう発電機を設置してまいります。	
停電時は場所によってはスマートフォンが通じない。	迅速な情報の発信	今回は、停電により、39メールの発信ができなかったことから、停電になっても一定の電気が確保できるよう発電機を設置し、広報車のほか市が行っている39メール、Twitter、LINEにより、情報を迅速に発信してまいります。	
市の情報が遅い。			
復旧、通電の時期等すべてにおいて情報が少なかった。			
すぐに必要な食品類が入ってこなかった。			

(2) 避難行動

① 今回の対応等

- 地震による建物等の倒壊がなかったことから、避難勧告や避難指示を行わず、停電による避難所への自主避難とし、広報車による呼びかけ、対象地区へのビラ配布を行った。

② 意見及び今後の対応

意見	課題	今後の対応（修正前）	今後の対応（修正後）
ブラックアウトを問題視しているが、今回は地震が先にあったため、まずは避難することが先に必要だ。	災害発生時にとるべき行動、持ち出し品の周知 <u>災害発生時に必要なことが記載されているパンフレットなどコンパクトなものの作成</u>	広報誌、市ホームページを通じ、市民に周知をまいります。	
災害があったときみんなパニックになる。急いでこういうことをやってくださいと言われても行動に起こせない。普段からきちんとしたことを作っておかないと、何もできない。		防災訓練を行うほか、普段から備蓄をしていくことや、避難するときの持ち出し品のリストなどを市広報誌、市ホームページ等により周知をまいります。	防災訓練を行うほか、普段から備蓄をしていくことや、避難するときの持ち出し品のリストなどを記載したパンフレット等を市広報誌と一緒に配布するほか、市ホームページ等により周知をまいります。

(3) 避難所運営・支援

① 今回の対応等

- ・ 福祉センター及び頼城多目的研修センターの2カ所を、自主避難所として6日午後5時20分に開設し、8日午前9時閉所した。
- ・ 避難所の開設については、6日午前中の段階で開設する候補を考えていたが、12時過ぎから通電された地区が出てきたことから、状況の判断をしていたこともあり、16時30分に開催した5回目の情報共有会議において開設を決定した。

② 意見及び今後の対応

意見	課題	今後の対応（修正前）	今後の対応（修正後）
避難所が2カ所しかないということが問題だと思う。また、福祉避難所を開くことができなかったのか。	災害時の避難所開設・運営についての具体的な手順、福祉避難所の在り方	福祉避難所の開設や、避難所の開設方法など検討してまいりたいと考えております。また、家庭内備蓄を含め、自助に基づく自主避難についても周知してまいりたいと考えております。	福祉避難所の開設や、避難所の開設方法など検討してまいりたいと考えております。また、家庭内備蓄を含め、自助に基づく自主避難や、 <u>一時的な避難所とそれ以外の避難所との区別についても検討し、市民に周知したいと考えております。</u>
大きな災害が発生し、芦別で避難所の開設が必要になった場合できないと思う。どのように避難所を開設していくのか、避難所のキャパ、備品の配置などある程度計画を早めに練っておくほか、避難所を開設しても、芦別市はここまでの災害しか対応できないということを、緊急避難は市民個人個人の対応力に任せざるを得ないということを市民に周知した方がよい。	<u>一時的な避難所とそれ以外の避難所との区別・市民への周知</u>		
避難所の載ったもの（防災ハンドブック）を配布していたが、新しいものを配布する必要がある。	冬期の対策や、備蓄するものを含めた防災ハンドブックの整備	平成28年9月に避難場所、収容人数、避難ルートについて記載した、カラー版の防災ハンドブックを全戸配布しているほか、市ホームページにも掲載しています。今後においても周知をしていくとともに、改定時期も近いことから、改定にあわせ、備蓄品や冬期の対策法も含め内容のものについても検討してまいります。	平成28年9月に避難場所、収容人数、避難ルートについて記載した、カラー版の防災ハンドブックを全戸配布しているほか、市ホームページにも掲載しております。 <u>なお、今後、備蓄品や冬期の対策法も含めた内容のものとする</u> ことを検討してまいります。
避難所の場所が全戸に伝わっていない。			
どこに避難していいかわからない。			
被災当日、何百人も集中すると対応できるのか。			
避難所に何人くらいは入れるのか。			
避難所がどの程度で利用できるのかわからず、いけない人もいます。備蓄品や冬季の対策法も含めて、「芦別市災害対策保存版」のような物を各家庭に配布してはどうか。			

意見	課題	今後の対応（修正前）	今後の対応（修正後）
<p>夏場はよいが、体育館など発電機があったらよいのでは。</p> <p>館内の自家発電が稼働したが、非常灯と消火栓しか対応しておらず、揚水ポンプに通電していないため、断水がなくても、停電による館内の断水が想定される。また、家庭用電源も取れないため、避難所としての対策が必要</p>	<p>非常用発電機をはじめとした備蓄品等の整備</p>	<p>作成する備蓄計画に合わせ、発電機など必要なものをそろえてまいりたいと考えています。</p>	<p>作成する備蓄計画に合わせ、発電機など必要なものをそろえてまいりたいと考えて<u>おります。</u></p>
<p>福祉センターでは、上芦別の人は遠すぎる。高齢者は避難所に行くのは大変ではないでしょうか。</p>	<p>自力で避難できない方への対策及び災害時の避難所開設場所</p>	<p>避難する場所については、防災ハンドブックにも記載しているとおり、近くの避難所に避難することを考えていますが、開設する避難所の在り方や、小さな避難所からの避難者の移動など検討したいと考えております。</p> <p>また、今回停電により各家庭の電話が使用できないことから、連絡の方法がないとのご指摘もいただいています。今後については、例えば、班長や区長や町内会長さんに連絡をしていただき、そこから市に連絡をいただくといったような連絡体制を整えたいと考えております。</p>	

(4) 物資及び資機材の備蓄・支援

① 今回の対応等

- ・ 備蓄品によるアルファーマ、水のほか、提供のあった飲み物、栄養食品を提供した。
- ・ 支援をいただいた飲料水、栄養食品を、避難者に配布した。

② 意見及び今後の対応

意見	課題	今後の対応（修正前）	今後の対応（修正後）
<p>備蓄の場所について、拠点となる場所に置くということについては、避難場所により人員が変わるので、不測の事態があったときにはそこへ持っていくことでいいと思う。</p>	<p>市が行う備蓄品に関する情報の周知及び備蓄方法並びに市民自らが備えておく持ち出し品（備蓄）の周知</p>	<p>非常用発電機をはじめとした備蓄につきましては、拠点となる避難所に備蓄又は運べるように、今後作成する備蓄計画書に基づき整備してまいりたいと考えています。また、災害時に備え、まず、自助が必要なことから、3日分の食糧のほか、必要なものを持ち出し品として各自が備えておく必要があるため、市広報誌や市ホームページなどで、改めて周知をしてまいりたいと考えております。</p>	<p>非常用発電機をはじめとした備蓄につきましては、拠点となる避難所に備蓄又は運べるように、今後作成する備蓄計画書に基づき整備してまいりたいと考えています。また、<u>自助として、災害時に備え、3日分の食糧のほか、必要なものを持ち出し品として各自が備えておく必要があるため、市広報誌や市ホームページなどで、改めて周知をしてまいりたいと考えております。</u></p>
<p>避難所が小さいと、備蓄場所を作るのが大変だと思う。</p>			<p><u>また、住民拠点サービスステーションとして登録されている非常用発電機を整備したスタンドの周知も行ってまいります。</u></p>
<p>発電機やモバイルバッテリー等を整備する必要あり。</p>			
<p>停電が長くなると、スーパー、コンビニ等に人の列ができ、パン、牛乳など食料品がなくなる。</p>			
<p>登別の停電のことを聞いたが、必要なのは、暖房と水。そのために発電機一つ置くといった話を聞いた。電池は必ず買っておく。備蓄は最低でも個人で備蓄するといったようなことも聞いた。</p>			
<p>備蓄についてですが、道路や橋が寸断されることもあるので、分散がいいと思います。</p>			

意見	課題	今後の対応（修正前）	今後の対応（修正後）
<p>みんな高齢者になってくると思うので、人が伝達することとなるので、家庭で備蓄するものを記載した見やすいものを配布するだとか、毎日見るようなものを作る。</p>			
<p>普段から少しずつ防災グッズを備えなければならない。</p>		<p>市の備蓄については、必要最低限のものしか備蓄することができないため、市民全員分を備えることはできません。3日から1週間程度は各個人において備蓄をしていただく必要があります。また、市の備蓄品については、今後作成する備蓄計画書に基づき備蓄品を整備してまいりたいと考えております。</p>	<p>市は、必要最低限のものしか備蓄することができないため、<u>3日分の食糧</u>などは各個人において備蓄をしていただく必要があります。また、市の備蓄品については、今後作成する備蓄計画書に<u>基づき整備</u>してまいりたいと考えております。</p>
<p>指定避難所に備蓄品を置いてはどうか。</p>			
<p>どこの避難所に何があるのか不明</p>			
<p>冬季は暖房設備について検討する必要あり。また、ガソリンなど自動車の燃料確保についても検討の必要あり。</p>			
<p>携帯電話の充電用コンセントが不足していたので、電源タップが必要</p>			

(5) 災害対策本部の体制と活動

① 今回の対応等

- ・ 地震による災害対策本部の設置については、地域防災計画により震度5弱以上となっていたことから、情報共有会議の名称で、対策本部とほぼ同様の体制をとり、全8回開催し、情報共有や対策について方針を決定した。

② 意見及び今後の対応

なし

(6) 救助救出・災害派遣要請

① 今回の対応等

- ・ 今回の地震・停電の影響による救助救出については、自宅での怪我人1名を搬送した。
- ・ 災害派遣要請はしていない。
- ・ 13日から15日被災地へ職員派遣を行った。

② 意見及び今後の対応

なし

(7) 医療活動

① 今回の対応等

- ・ 市立芦別病院は、6日縮小して診療実施、7日MRI以外通常どおり診療した。
- ・ 他市への特別な医療活動はなし。

② 意見及び今後の対応

意見	課題	今後の対応（修正前）	今後の対応（修正後）
<p>在宅介護されてるお客様で、在宅酸素療法をされている方がおり、停電で酸素が止まりました。業者さんになかなか連絡が取れないという状況の中で、市立芦別病院に特例で入院を受け入れていただけるといったことがありまして、非常に助かりました。</p>	<p>災害時における医療、介護、福祉関係者との情報の共有</p>	<p>状況によっては、福祉避難所への避難も想定できることから、災害時に医療、介護、福祉関係者で情報などをやり取りできる（例えばグループLINE）を作ればと考えております。</p>	
<p>喀痰吸引のサクションについても電気が必要だったので、ご家族にお願いをして直接痰を取り除いていただいた。 褥瘡予防で特殊寝台（エアマット）を使われる方で、背もたれが上がったまま止まってしまい、それをどうやって手動で戻すのかといったことがありました。</p>			

(8) 広報・情報提供

① 今回の対応等

- ・ 市民への情報提供は、停電中は市広報車での情報提供を行い、通電後は、市広報車に加え市ホームページや39メールでの情報提供を行った。
- ・ 避難所開設に伴い、停電地区へのビラを配布した。
- ・ 断水となるといったデマ情報が出たため、市広報車による周知を行った。

② 意見及び今後の対応

意見	課題	今後の対応（修正前）	今後の対応（修正後）
<p>広報車の情報提供ですが、もう少しわかりやすくしてほしい。</p> <p>情報不足</p> <p>早く正しい情報がほしい。</p> <p>テレビが映らなかったので、ラジオ、携帯電話などない家庭はどこから情報を得たらよいか不安だったと思う。</p> <p>震災後の各個人が冷静な行動をとるには、被害状況・電気・水道などの復旧の時期など、正確な情報の影響に尽きると思います。あくまでも司令塔は市、そのために必要な準備が必要です。</p> <p>地震に気付かず（主に老人、軽い認知）、停電がどうしてなのかわからない人がいた。</p> <p>嘘情報が流れる前に、的確な情報が知りたい。</p> <p>避難所が開設された場合、そのことを町内全域に周知する方法はあるのか。</p>	<p>広報車での情報周知方法及び正確な情報の発信</p>	<p>広報車については、ゆっくり走るように指示を出しておりましたが、情報を早く伝えなければならないという思いから、速度がだんだん早くなっていったと思われまます。このことから、アナウンスにつきましては、一定の場所に止まってアナウンスをするなど工夫してまいります。</p> <p>また、情報の発信につきましては、市役所庁舎が停電により、電話、インターネット、パソコンが使えなくなったことから、39メールによる情報発信ができず、広報車による情報の発信のみとなってしまったことから、非常用発電機を整備し、ホームページ、39メール、Twitter、LINEによる情報発信を行うとともに、各町内会長との連絡体制の整備などを行い、迅速な情報発信に努めたいと考えております。</p>	

(9) ライフライン

① 今回の対応等

- ・ 電気
全市停電となり、市全体が復旧するのに約44時間かかった。
- ・ 水道
直圧式による給水のため、ほとんどの地区は問題なかったが、一部直圧方式でないところや、建物の屋上に水を揚げて使用しているところは停電により使用できないところがあった。(油谷地区等)
- ・ 下水道
停電により下水道のポンプが停止してしましたが、非常用発電機を使用したり、バキュームカーを待機させる体制をとったことから、使用できた。
- ・ ガス
特に報告なし。

② 意見及び今後の対応

なし

(10) 交通

① 今回の対応等

- ・ JR
6日から運休し、20日夕方から運転を再開した。また、通学用に代替えバスが出ていた。
- ・ 中央バス
芦旭線については、6日運休、7日午後5時芦別発から通常運行、滝芦線については、6日及び7日運休、8日から通常運行、高速ふらの号については、6日及び7日運休、8日富良野発から通常運行
- ・ きらきらバス
通常運行

② 意見及び今後の対応

なし

(11) 孤立地区

- ① 今回の対応等
なし
- ② 意見及び今後の対応
なし

(12) ボランティア

- ① 今回の対応等
なし
- ② 意見及び今後の対応
なし

(13) 積雪寒冷期等

① 今回の対応等

- ・ 暖房の確保が必要となるため、非常用電源（発電機）が必要となる。
- ・ 吹雪であったとき、吹き溜まりで避難所に避難できないことが考えられるため、早めの避難周知が必要となる。

② 意見及び今後の対応

意見	課題	今後の対応（修正前）	今後の対応（修正後）
<p>停電が冬の場合は、ストーブ等暖房の用意が不可欠となる。水の問題、どう対応するのか。</p> <p>真冬の震災は、命の危険性があります。</p> <p>寒さ対策が必要</p> <p>マイナス気温の中で生活できない。食品等の確保</p> <p>各家庭で毛布などの圧手のものが常備されているのか。</p> <p>避難所ストーブの電源</p> <p>高齢化で何をするにも人手がなく、暖房の問題、食品の備蓄など輸送の問題もある。</p>	<p>積雪寒冷期における非常用電源、備蓄品の整備</p>	<p>市がすべての方の毛布をそろえることはできないことから、災害時の原則にもあるように、まずは各個人において、普段から毛布を準備しておくなど必要であることから、周知を図ってまいります。また、避難所の電源については、移動可能な発電機や、ストーブの備蓄が必要であると考えていることから、今後作成する備蓄計画に基づき、整備してまいりたいと考えております。</p>	<p>市が市民全員の毛布をそろえることはできないことから、災害時の原則にもあるように、まずは各個人において、普段から毛布を準備しておくよう、周知を図ってまいります。また、避難所の電源については、移動可能な発電機や、ストーブの備蓄が<u>必要であることから、今後作成する備蓄計画に基づき、整備してまいりたいと考えております。</u></p>
<p>雪、除雪、防寒</p> <p>大雪の場合通路の確保が問題</p> <p>ドアが開かなくてもベランダや窓から声をかけることが出来たが、冬期は雪の問題もあり、声もかけられない。</p> <p>冬期間の停電の場合、早い段階で避難の呼びかけを行わなければならない。</p> <p>降雪期では、避難困難者が多く出ると思われるので、救援体制の整備が必要</p>	<p>積雪寒冷期における連携体制</p>	<p>冬期間の災害における体制については、市内関係機関はもとより、空知振興局管内でも連携体制を作っていますが、災害の状況によってはすぐに出動できないことも考えられるため、各個人や家庭においても安否確認や避難できる体制を整えるようにしてください。</p>	<p>冬期間の災害における体制については、市内関係機関はもとより、<u>空知総合振興局管内でも連携体制を構築していますが、災害の状況によってはすぐに出動できないことも考えられるため、各個人や家庭においても安否確認や避難できる体制を整える必要</u>があると考えております。</p>

(14) その他

① 安否確認

ア 今回の対応等

- ・ 要支援者の安否確認が必要なことから、町内会と協定を結んでいるが、今回連絡を取るのに時間がかかってしまったことから、携帯電話番号の把握のほか、安否確認をスムーズに行えるよう市と町内会で連携してマップ作り（余計な個人情報を入れない）などを考えていく必要がある。

イ 意見及び今後の対応

意見	課題	今後の対応（修正前）	今後の対応（修正後）
避難させるというのが一番大事だと思っ ていますが、ここにこういった人がいて避難 することができないということをはっきりさ せるのが本当ではないかと思う。	安否確認に係る具体的な確認方 法	安否確認については、今後も課題が残ると ころです。実際に安否確認をするためには 安否確認をする方がわからなければで きないことから、安否確認をスムーズに行 えるよう市と町内会で連携してマップ作り などを考えていく必要があると思ってお ります。	安否確認については、今後も課題が残ると ころです。実際に安否確認をされている方 に必要な情報をきちんと渡すことが出来る よう、個人情報保護法、個人保護条例等関 係法令に照らし合わせながら、どこまでの 情報を出すことが出来るのか関係部署と協 議し、問題点を取り除く検討を行って行く ほか、安否確認をスムーズに行えるよう市、 町内会、民生委員児童委員と連携し、マッ プ作りなどを考えていく必要があると考 えております。
電話が不通なので、停電時安否確認出来 ない。			
インターホンがあっても、停電の時は鳴ら ないため、安否確認に手間取る。			
自分のことで精一杯という人が多くなる。			
固定電話が使用できなかったことから、町 内会長、民生委員への連絡が行き届かなか った。			
高齢化（地域の）が進み、確認をする立 場の人達も体力的に無理となって来ている。			
1人での対応はかぎりが有り、連携が必要 町内会などを利用した連絡網の整備 負傷者多数の場合、どう対応するのか。			
車がある家はまだ動ける可能性もあ りますが、公共交通機関にたよっている方は、 その際どうしたらよいのか。			

② 市、病院、施設との連携

ア 今回の対応等

- 市立芦別病院及び介護老人保健施設すばるを除く市内にある入院施設を持っている病院、介護施設に連絡をし、食料の状況や、電源の状況を確認した。

イ 意見及び今後の対応

意見	課題	今後の対応（修正前）	今後の対応（修正後）
日常的に市との細かいところでの連携、病院、施設との連携をもう一步進めることができたらと思う。情報提供ですね。停電になったらここにおいでだとか、窓口みたいのがあればと助かる。	災害時における医療、介護、福祉関係者との情報の共有	医療、介護、福祉の担当部署で連携しているものはあると思いますが、災害時に情報などをやり取りできる（例えばグループLINE）を作ればと考えております。	医療、介護、福祉の担当部署で連携しているものはあると思いますが、災害時に情報などをやり取りできる <u>仕組み</u> （例えばグループLINE）を作ればと考えております。

③ その他

ア 意見及び今後の対応

意見	課題	今後の対応（修正前）	今後の対応（修正後）
関東の出身なものですから、地震があったら水を確保するというを経験してきているので、今回の地震もすぐに水をためた。それが当たり前の自衛の策と考えていた。今回赤水が出たということですが、市民の方が自衛のために水をためて赤水が出たことの方が、改良すべき問題なのではと思う。	災害時における取るべき行動の周知及び赤水が発生する場合など市民への事前の情報提供	計画的に古い水道管を新しいものに変えているところではありますが、現状では、市民が一斉に水をためると赤水が発生してしまうことから、 <u>デマ情報</u> に対する情報や、災害に関する情報など迅速な情報発信を行うほか、赤水が発生する場合（ケース）の事前の情報周知をしまいたします。	計画的に古い水道管を新しいものに変えているところではありますが、現状では、市民が一斉に水をためると赤水が発生してしまうことから、 <u>デマに対する情報</u> や、災害に関する情報など迅速な情報発信を行うほか、赤水が発生する場合（ケース）も <u>事前の情報提供</u> をしまいたします。
芦別に備蓄しているものがあるが、これだけあるということを市民の方はどれだけ知っていたのか、どのように伝えていたのか、有事の際は一にも二にも情報が大事なので、こういう情報もなるべく広範囲に市民の方に伝えていかなくてはならない。	備蓄に関する情報の提供	備蓄計画を作成することから、今後市ホームページに掲載するほか、情報発信につきましては、市が行っている39メール、Twitter、LINEにより、情報を迅速に発信してまいります。	

意見	課題	今後の対応（修正前）	今後の対応（修正後）
<p>市職員と住民との連携</p> <p>避難所は地元だと思うが、富良野に向かう方などで避難者がいた場合受け入れをしなくてはならない。海外の方が多くなっているため、何かあったときにそういった対応が必要だということと、今回広報車だけ走らせたが、救助が必要な場合も考えられるので、消防団に話をし、消防車を走らせるといったことも考えられる。こういう検証を詰めていって、今後の災害に備える方向で皆さんと連携をしていきたい。</p>	<p>市民と市職員による災害対策に関する仕組み作り。</p>	<p>防災マスターの育成など今後の課題と考えています。また、災害時のボランティア活動をされている方も市内にいることから、このような方の力を借りながら、いろいろな仕組みを作りたいと考えています。</p>	<p>防災マスターや、災害時のボランティア活動をされている方の力を借りながら、いろいろな仕組みを作りたいと考えています。</p>